

## プレスリリース

2022(令和4)年5月6日  
一般社団法人 日本船舶電装協会

### 船舶の火災事故の防止には絶縁抵抗の測定が不可欠です 測定マニュアルの動画を YouTube に掲載しました

運輸安全委員会の船舶事故調査報告書によると、船舶で発生する火災事故の多くは絶縁不良が原因とされ、防止対策として定期的に絶縁抵抗の測定が必要と指摘されています。また、国等が実施している船舶検査においても、絶縁抵抗試験を実施することとされています。

船内に設置されている電線は、周囲の温度上昇、油分・海水の付着、経年変化により被覆が劣化したり、就航後内装材に打ち込まれた金具により被覆が破損したりすることにより絶縁性能が低下して漏電し、電線の過熱や短絡(ショート)により火花が発生し、船舶火災に至ることがあります。これを防止するためには、絶縁抵抗試験により電路の不良個所を特定し、修理することが不可欠です。

絶縁抵抗の測定は、定められた手順によることが必要であり、手順を誤ると電路に接続された機器の破損や感電の恐れがあるため注意が必要です。

当協会は、2021年度事業(特定公益法人 日本財団の助成事業)として、造船所、電装事業者、関係官庁、検査機関、関係団体から構成される委員会(委員長は東京海洋大学 学術研究院 海洋電子機械工学部門 木船弘康 教授)を設置して「絶縁抵抗測定マニュアル」の報告書と作業者の教育用として動画 DVD を作成し、会員、関係機関等へ配布しました。

また、新たな試みとして、短縮版の動画を作成し、YouTube にアップロードしました。

[https://www.youtube.com/watch?v=Ce\\_Chdhwt4](https://www.youtube.com/watch?v=Ce_Chdhwt4)

検索  